

日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

第2回 審議会

■日 時 : 平成27年10月16日(金) 14:00～

■場 所 : 日田市役所 庁議室

■出席委員 : 15名中15名出席

飯田委員 日隈委員 石橋委員 高山委員 河津委員 井上委員 永松委員(代理)

諫山委員 篠藤委員 岩里委員 伊藤委員 藤吉委員 笹山委員 海老原委員 大塚委員

■次第

1. 開会

2. 議題

(1) 日田市総合戦略について

- ・「人口ビジョン・総合戦略」等 これまでの経過及び今後のスケジュールについて
- ・市民意識調査の結果
- ・市民の皆様から提案のあった施策・事業について
- ・大分県総合戦略(案)について

(2) その他

- ・政府関係機関の地方移転に係る提案について

3. 閉会

発言者	主 旨
事務局	<p>ただ今より「第2回日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会」を開催いたします。</p> <p>開催に先立ちまして10月1日付けで大塚副市長が就任されましたので、本日の審議会から委員として参加致します。</p>
大塚委員	<p>皆様こんにちは、大塚でございます。このたび、副市長に選任をいただきました。私は、日田は初めてでございます、地理もまだ把握できておりませんが、まずは多くの人とお知り合いになりたいので、どうかよろしくお願い致します。</p> <p>とにかく、いろんな方とお話しをして、いろんなご意見を頂いて、ご相談をして、良いまちにしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。本日、金融機関代表の委員であります、大分銀行永松様が所用のため欠席されることから代理と致しまして、井ノ上様が参加いたします。</p>
事務局	<p>それでは、まず始めに篠藤会長よりご挨拶をいただきます。</p>
会長	<p>皆さま、こんにちは。先日、私は、ドイツから戻って来ましたが、報道されていますように、シリアから100万人位の難民が押し寄せています。各地域で体育館のような所が難民キャンプのようになっています。私は、東西統一の時におりましたので、その時も旧東ドイツから多くの人 came ましたが、それを超える形で今来ております。やはり、時代の新しい流れの中で、大陸の国境を接している国家において、大激変が起こっているのです。</p> <p>それに対して、日本は島国で、目に見えるような大激変、大激動はなかなかないのですが、実は、ここで取り上げている地方消滅や地方創生は、大激変です。ドイツなどは国家予算で1兆円を難民のために今年度支出するということを決めております。人口は、8千万人で日本よりも小さい。そのような中でここ日田市でも、色々な形で市民の意見を聞いており、今日はこれら意見のご報告を受けながら、我々は審議するということになっております。市民の方々一人ひとりの意見を審議会のメンバーは代表して、受け止めて、何とか一歩でも進めたいというのが、我々の責務だと思っております。よろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それでは、ただ今より審議会を開催いたします。設置要綱第5条第2項で「会長は会務を総理し、審議を代表する。」とありますので、ここからの進行を会長にお願いします。</p>
会長	<p>はい、それでは会次第に従いまして、進行をさせていただきます。まず事務局から会議成立のご報告をお願いします。</p>
事務局	<p>設置要綱では委員半数以上の出席が必要とされており、本日は、全員のご出席ですので、会議は成立いたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。それでは議題に入りたいと思います。最初に「日田市</p>

	<p>総合戦略について」3つあります、それらは全て日田の総合戦略に関わることで、それから政府機関の地方移転に係る提案も日田に関わることが取り上げられています。その他で「大分県総合戦略」が資料で出ております。まずは、事務局から全体的な流れを一括してご説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは資料に基づきまして、ご説明をいたします。</p> <p>～資料1から資料6の説明～</p> <p>■資料1 まち・ひと・しごと総合戦略の経過 * 市民まちづくり集会 新聞記事</p> <p>■資料2 「人口ビジョン・総合戦略」等策定スケジュール</p> <p>■資料3 意識調査結果 概要</p> <p>■資料4 市民の皆さんから提案のあった主な施策・事業</p> <p>■資料5 大分県総合戦略（案）</p> <p>■資料6 地方創生に資すると考えられる政府関係機関の地方移転に係る提案について</p>
会長	<p>これから審議に入りたいと思います。これまでの経過、今後のスケジュールについて説明がありました。これについてご質問やご意見はございませんか。</p>
委員	<p>スケジュール表から、10月の予定では、人口ビジョン（たたき台）に沿う施策の中身がプロジェクトチームから検討会議、創生本部会議、審議会という形で進んでいくと思われま。ただ、第1回目の審議会でありましたように、人口ビジョン（たたき台）が本当に実現できるのかとの議論があったと思います。市議会では、現在、議会報告会を実施しております。その中では、総合戦略でどのような施策を実行するべきかを提案しながら市民の皆さまと意見交換しているところです。</p> <p>市民の方から、地方創生は無理だという意見もあります。「自分に子どもがいたら日田には住ませない」というご意見や、「国は地方創生といっているが、東京、大阪、名古屋側から考えているのではないか。各都道府県の県庁所在地、大分県でいえば大分市を中核として地方創生をやっていくということで、日田市は活性化の対象には国はしていない」というご意見もあります。</p> <p>このような、否定的な意見が出されている中で、先日開催された、まちづくり集会の中では前向きな意見を出されている方々もいます。日田市全体で、人口5万人に留めて、今よりも若い人達が活躍できる日田市を目指すためには、市民が一つの方向に向かないと、事は進まないと思うのです。人口ビジョン（たたき台）で示している2030年に合計特殊出生率2.1人に上げていくための施策を実行し、毎年社会増を150人プラスにする事が記載されておりますが、市民の皆様にはわかりにくい。</p> <p>施策を頑張りましたが、結果はこうでしたというのではなく、結果を出しながら施策を実行する考えで進めるためには、今の段階で提案している人口ビジョン</p>

	<p>(たたき台)の中身では弱いと思います。</p> <p>具体的にいきますと、合計特殊出生率を上げていくなら、年間何人のお子さんを出生数にしていくのかとか、その世代である20代、30代の転出を抑えていくあるいは転入を増やしていくという具体的なある一定のビジョンを出さないと市民の人たちは取り組みが本気なのかと思うのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>今の質問は、第1回目で一番活発な議論になったところです。そのことを再度提起したということと、10月のスケジュールの確認を含め、事務局よりお願いします。</p>
事務局	<p>現在の人口ビジョン(たたき台)では、5万人を目標としておりますが、設定している合計特殊出生率や社会増減の達成は難しいのではないのか、または達成するための根拠をわかりやすく記載するべきではとの意見かと思っております。</p> <p>確かに、国においても1億人を確保する目標、大分県においても2060年に96万1千人を目指すとしております。大分県はかなりハードルの高い設定をし、それに向かって取り組んでいくという数値です。</p> <p>日田市において2060年に5万人という人口を確保する設定は、ハードルは高いけれども、県内他市の人口設定と比較しながら可能として、日田市版人口ビジョン(たたき台)を作成しました。委員からご発言がありました、合計特殊出生率や社会増減の目標を達成するための具体的な数値、根拠を示すことは、現実的に厳しいと思っております。</p> <p>他市の人口ビジョンを見ましても、そこまでの根拠を示している人口ビジョンは基本的にありません。日田市を元気なまちとして維持するためにはとの考えから、5万人を何とか維持したいということで設定しているものです。現在の人口ビジョンは、たたき台でございます。今回のご意見も踏まえつつ、最終的に本部会議で決定していく予定です。</p>
会長	<p>審議会としても、最後に方針をまとめる時にこの議論は重要なことです。目標数値に対して施策をどう盛り込むのかは、これから議論が本格的になると思います。</p> <p>日田市だけが頑張って、目標を実現するという事は難しいと市民は考えており、率直なご意見だと思います。やはり国の頑張り、例えば、東京に集中していったのは、明治以降続いていた構造ですから、この構造を変えましようと考えているのです。日田市がどうこうではなく、構造を変える中心は国の責任なのです。</p> <p>本当に実現するためには日田市の人口ビジョンをどうするのか、市民意見をどうするのか、答申はどうするのかについて、これが本格化されるようになると思います。</p> <p>他にご質問はございませんでしょうか。</p>
委員	<p>前日も申し上げたのですが、国が所管する施設の半分くらいを地方に移すくらいではないと、誰もついていけないと思います。日田市でも行政を中心として我々が本気度を示さなければいけないと思います。本気度を最初に出していかな</p>

	いと何も変わらないと思います。
会長	第1回の審議会で、国への提言という委員のご発言もありました。これも含めてこれから議論ができればと思います。
委員	<p>日本の人口が減るのは東京や大阪に人口が集中したのが原因かと思います。合計特殊出生率は地方が高く都市が低い。地方が頑張れば日本の人口は増えるとの考えから地方創生という発想になったのかもしれませんが。国の考えは、事前に目標を決めて、それを成し遂げるために様々な事に取り組む、だと思えます。</p> <p>しかし、私は、結果は後からついてくるものだと思います。ひとつの目安として人口ビジョンがあるにせよ、いかに地方創生の中身を充実させるのか、場合によっては、人口が減っても、減った中で生き方を見つけられればいいわけで、人口ビジョンにはあまりこだわらなくてもいいと思います。</p>
会長	<p>前回の議論の中でもありました。今後また議論ができればいいと思います。</p> <p>スケジュールから、市議会も20地区に出向いて、意見交換をしているとの事ですが、その件についてどうですか。</p>
委員	市議会では、20日までに20地区での意見交換会を実施し、終わり次第、まとめていく予定です。
会長	<p>行政や議会の役割が大事だと言われていますが、日田市は様々なことを独自にされていて私個人も関心を持っております。</p> <p>続きまして、市民意識調査の結果ということで事前に配られておりますが、ご質問があればしていただきたいと思えます。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>私が、特に関心があるのは、子育て世代の20歳から39歳に向けてのアンケートです。3ページの上段にあります。3ページの上段にありますが、「未婚」の方に、「結婚を支援するために、日田市が取り組むべき事業は何だと思えますか。」の問いに対して圧倒的に「安定した雇用の確保」となっています。そして、「安定した雇用」という部分で、具体的にどれくらいの所得の仕事を求めているのか、どうすれば、子育て・結婚、出産に安心して日田市に住めるのかを検討する時に、所得は重要だと思います。</p> <p>今回のアンケートで所得の部分についてはありませんが、合計特殊出生率を上げて、転入者も増やしてとなると、どれくらいの所得が安定した雇用につながるのでしょうか。他の課が発表しているのでは、このような世代は年収300万が多いそうです。子ども3人で、年収300万というのは大変なことだと思います。</p> <p>「安定した雇用」というのは、抽象的ですが、実際にはどのくらいの年収になるのでしょうか。</p>
事務局	<p>具体的な所得ですが、所得がいくらあれば就職をするのかという内容は、今回の設問にはありません。「安定した雇用」という言葉で今回の意識調査を行っています。今後、「安定した雇用」は年収300万をひとつのケースとして、どのくらいの子育て費用がかかるのか等シミュレーションをしながら調査していきたいと思えます。</p>

会長	今回のアンケート調査では具体的な数値では調査していません。しかし他の課で発表しているとのことでしたが、300万というのはどこからですか。
委員	これは、日田市の保育料の負担軽減をしている人達とお会いしたときにモデルケースとして担当課が発表したのが300万ということです。
会長	今回のアンケートでは、ご質問の項目については調査していないということです。今後、子育て世代の分析をする場合に、経済的格差を考えると「安定した雇用」という項目で調査しておりますが、そもそも子育て世代が考える安定した雇用につながる年収がどれぐらいなのかを考える必要があるということです。そこまでする調査や分析が非常に有意義なものであるかもしれません。今回の結果にはありませんが、今後検討していただければと思います。 他にいかがでしょうか。
委員	10ページの2つ目の問いで「地元就職・地元で起業をする際にどのような支援策があればよいと思いますか」とあります。選ぶ回答方式の質問です。今、2人に1人が奨学金を利用している現状ですが、この「返済減免」というのはあらゆる奨学金に対しての回答ですか。
事務局	「地元就職・地元で起業をする際にどのような支援策があればよいと思いますか」という質問に対して、日田市に住民票があります、市外の大学等に進学されて、その方が日田に戻り、日田に就職する際に何が必要かということに対する回答です。この奨学金というのは、何の奨学金かについては設定していません。 このような制度があれば、地元就職に繋がる、日田に戻る際に有効な施策になるものと考えていいものと思います。
会長	他によろしいでしょうか。 次は、今まで市民の皆さんから提案のあった主な施策・事業をまとめたものです。ここでは質問ということで受け付けます。事務局から量的なアンケートと特に具体的な提案というものをまとめて、次の土台の施策を作っていく、あるいは今作っているということでありまして、これについて忌憚のない意見をお願いしたいと思います。 まずは、質問ということで、箇条書きでしか書かれていませんので、これはどういう意味だろうということがあればいかがでしょう。
委員	「安定した雇用をつくる」の左側の一番下に「市中心部に木材と鉄骨を組み合わせた大屋根ドームの整備」とありますが、これがどのように雇用に繋がるのか、どのように理解したらいいのか。
事務局	中心商店街に、このような施設があれば、様々なイベントにも使えるし、日田の材木を使ったものであるならばPRできるのではないかという意見です。
委員	中心部に人を呼び込むためというものですか。
事務局	人を呼び込むためのものでもあるし、商業活動のためでもあります。常設型のこういった大屋根ドームがあったらいいということです。

会長	他にご質問はいかがでしょうか。
委員	「雇用をつくる」の(1)産業全般の最初の「各種産業を支える人材育成」は、どういった内容が出されているのか、どういった人材が求められているのか。
事務局	この意見につきましては、ひとつに農業・林業の従事者や伝統技術を継承する人材がなかなかいない、また後継者がいないというような意見を総まとめにしたものです。
委員	介護人材が不足しているというのをよく聞きます。施設はあるけれども、介護をする専門職の方がいなくて、結局ベッドが空いたままの状態になっている。介護の方は民間の6、7割程度の賃金しかないということで、雇用が続かないという声を聞いています。そのことについては出ていませんか。
事務局	今いただいている意見の中には、具体的に介護という項目については上がっておりません。建築現場、農業、林業という分野の雇用にはありました。
会長	よろしいでしょうか。先ほどから、短いことばで書かれているために若干の説明を求めています。他に質問はないでしょうか。
事務局	様々な意見をひとつの文として集約しております。頂いた意見には、文章で書いている内容もあります。最終的に頂いた意見についてはそれぞれ毎に、回答を公表する予定です。
委員	「日田市への新しい流れをつくる」の「市内案内や移住相談窓口、田舎体験等移住コーディネーターの充実」とありますが、実際に動いているものはありますか。
事務局	現在取り組んでいる内容では、移住を検討したい方は、市の窓口であります、地域振興課で相談を受けています。地域振興課が相談を受け、空き家の登録情報や空き家の見学を希望すれば、委託しているNPO法人が現地を案内しています。今回記載しています意見は、もう少しケアを細かくするという内容です。移住を希望される方は、色々なことに不安があるので、仮に住まいがあっても、仕事の不安などがあります。今は、総合的な窓口がありません。総合的に移住者の不安に応えられるようなスタッフや体制を整えるべきだというご意見をいただいたところです。
会長	現状はどうなっているのかというご質問が出ております。ということで、ここからは、意見交換とご質問に移らせていただきたいと思います。
委員	市民の皆様からの出された意見を最終的に市が事業として作り上げなければならない、市民の方々から寄せられた意見は非常に貴重なものだとは思いますが、これからから事業を作り上げるまでの過程はどのようなイメージになるのか。
事務局	市民の皆様から提案があったものについては、ひとつひとつ答えを出していきます。しかし、全てが事業化するものではないということが前提になります。 予算や財政の問題もあります。すぐに出来るもの、2年、3年経たないとできないものも当然この中には入っています。国の来年度の予算は1080億という情報がありますが、これは国全体です。これまでの配分割合でいくと日田市への交付金

	<p>は、約6,500万円ぐらいが予想されます。</p> <p>今回の総合戦略は、このまま人口減少が進んでいくと、日田市は5万人を切ってしまう。それを防ぐためにはということで、市民の皆さまからの意見を頂きました。その意見について、市役所の各担当課ではどうすれば実現ができるのかといった作業を今進めています。それを最終的には案の中に入れ込んでいきます。</p> <p>補足ですが、総合戦略については、県でもそうですが、あくまでも施策の内容を記載していくものです。今後の具体的な事業については、28年度の当初予算から明らかになるわけですが、28年度に取り組む事業、また、29年度以降も毎年度アクションプランとして別途まとめていく事を考えております。</p>
会長	質問ですが、これは国に提出しなければならない。との理解でいいのか。
事務局	提出ではなく、策定したものを公表すれば良いとなっております。
会長	策定すれば、自動的に補助金は交付されるのですか。
事務局	<p>先ほど申し上げた国からの補助金（新型交付金）ですが、これまでの内示額等から計算すると6,500万円くらいになります。この新型交付金対応分については、その補助額と同額以上の市の財源を手当てして、1億3千万程度の事業を組み、総合戦略での交付金対象事業として実施することになります。</p> <p>掲げた施策次第になりますが、今後4年間でどれぐらいの予算を確保するかになります。先月、10月1日に開催されました、大分県本部会議で宇佐市では、子育て支援に力を置くということで、毎年2億、5年間で10億の予算を子育て支援に考えていると発言があったようです。幅広い分野に配分するのか、重点分野に配布するのか、このあたりを今後話し合っていきたいと思っております。</p>
委員	<p>今後日田市版総合戦略の案がどう策定されるのかが見えません。</p> <p>市議会では、3つの委員会ごとに柱としたものを総合戦略に反映しようとしています。例えば、産業建設委員会では「木材産業の振興」を柱にするとか、木材産業だけではなく「地場産業」という形でそれに付帯するものを農林業、中小企業、商店街を含んだものを3つ、4つ程度の項目を載せて市に提言をするなど考えています。</p> <p>しかし、市は総合戦略をどういった形で考えているのか、全然見えてこない。今日、県の総合戦略を見たときには総合計画の中から総合戦略になるものを抜粋して載せたということでございます。策定した市町村のをみると、そうしたものもありますし、大きな柱を何本かたてたものもあります。</p> <p>日田市もこれとこれをメインにした施策があって、事業が考えられている。と思われませんが、どうイメージを持てばいいのでしょうか。</p>
事務局	<p>資料4に国の政策分野がありますが、これまで市民の皆さんにはこの括りで説明をしてきましたので、今後もこの括りで施策を整理していきたいと考えています。</p> <p>この括りの中でこれだけの提案がなされていますが、これを全部というのは難</p>

	<p>しい訳です。従いまして、今後4年間特に力を入れていく分野を掲げていく必要があると思います。これにつきましては、本部会議で議論をしている最中でありまして、かなり絞った形になっていくのかなと思います。</p> <p>28年度に具体的に事業化されるものや、29年度、30年度から開始するものもあると思われます。国の考えは、今年度策定した総合戦略については今後変更することはできないとはしていません。今後、市民の皆さまと実施していく中で、これは違うなというものがあればどんどん変更してやっていきます。まずは年度内に策定をして、28年度に事業をスタートさせて、状況に応じて柔軟に対応していきたいと考えています。</p>
委員	<p>総合戦略の中身を途中で変えていくのはいいことだと思うのですが、総合戦略で策定したものは柱だと思います。その柱の中の事業が増えたり、減ったりするのはいいのですが、その柱の考えを知りたいのです。</p> <p>審議会のメンバーが提案された総合戦略について策定された過程を知り、それが日田市でどうなるのかを議論するためにも、柱など早めにイメージがなければいけないと思います。</p>
事務局	<p>全国の600ほどの自治体が、10月中に策定をするようです。総合戦略には最低限盛り込まないといけない項目があります。それに沿った形で、作り方や見せ方が違うだけです。もしよろしければ県の総合戦略を今日ご提示しましたが、他市の作成したものを資料のイメージとしてお送りしてもよいかと思います。</p>
委員	<p>先ほどの質問は、どのような総合戦略となるのかを見たいと発言しているのではなく、どのような手順で、この段階で、現在示している4つの柱の下にくる施策とか方向性というものがいつ頃できて、さらにそれに必要となる事業が出てくるのか、を知りたいとの発言ではないでしょうか。</p>
委員	<p>その通りです。現状は、大分県が作成した案がありますが、こういった形の出し方もありますし、もうひとつは、例として地場産業の振興という柱をもってくれば、その中に農業振興といったものがぶら下がってきます。それが雇用であったり、ひとの流れをつくることが目標であったり、柱というものが日田市の創生という形で、皆が、これが日田市の創生の柱ですよとわかる形が分かり易いのではないかと思います。</p> <p>例えば、「水郷日田」といったものをもってくると観光であったり、水環境の整備であったり、そういった出し方もあります。</p>
事務局	<p>そうした意味においては、日田市における安定した雇用をつくるということについては、大きな大項目の施策がいくつか出てきます。その大きな施策の中に小さな施策、KPIをつくるというイメージです。それにぶら下がる事業内容につきましては、毎年度の事業がついているというイメージです。</p>
会長	<p>現在事務局では、国の考えに基づき4つの柱で考えているようです。市民集会でもこの柱を活用して行われております。</p> <p>先ほどの意見では、地場産業など特化した項目をたて策定したらどうだろうか</p>

	<p>との意見です。また、審議会として、一番重要なのは戦略を策定するプロセスに携わることが大切であるとのこと。今後総合戦略の案が提案されてきますが、その案に対して審議するだけでは、審議会の役割が不安というか不満というか、との意見が皆さんにはあるのではないかと感じます。</p> <p>私からの提案ですが、どちらにしても、アンケートの結果があり、様々なアイデアが出ています。これにある全てが施策として出てくるということはない訳でして、我々として、この内容を見ながら、これが重要ではないかとか、内容に基づく市民のそれぞれの代表として意見交換をするということが、今回一番いいかと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>～一同賛成～</p> <p>そして、発言のありました意見を是非案に活かすということで、今日の審議会の目的にしていいただければと思います。</p> <p>委員の言われているのは、議会ではそれぞれの委員会で、柱を絞った形で提言をする予定との事でした。審議会として、さまざまな意見を整理することが重要だと感じます。</p> <p>ということで、4つの柱についてでもいいですし、市民の意見について、この辺こうだとか、今からは自由な意見交換ができればいいと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>市民の皆さまからの提案もそうですが、県の案でも私の見た限りで出来ていないのが、企業の安定雇用として、企業側の定着率を上げるというのがあります。そのひとつのフォームとして企業内での出産、子育ての支援です。企業内託児所制度というのがあります。私どもも制度を作り、そうしたものが重要だと思います。企業内託児所の手続きが複雑で、もう少し市独自で緩和して、企業内のスペースを使ってできるようにすれば、相当定着率もよくなり、働く人も助かると思います。昨年から制度が変わって、国から市の制度と移り、今まで認可託児所の保育士の人件費の半分の支援がなくなりました。そういう問題も含めて企業の実態の声を聞いて、またハローワークなどでも企業内に託児所がありますということでも来られる方も多いので、それぞれの生活の中で働く場のニーズをこの中に入れていただきたいと思います。</p>
会長	<p>先ほど、安定した雇用に繋がる所得はいくらぐらいなのかとの発言もありましたし、働くという形で男女共同参画として共に働くといった場合、託児所という具体的な問題が出てきました。定着という言葉が言われましたが、本当にそのとおりです。雇用先はありました、でも3年で離職率が圧倒的に高いという時代ですから、仕事の定着について踏み込んだ議論が必要ではないかとの意見だと思います。他にいかがでしょうか。</p>
委員	<p>私どもは進出企業としての立場からお話しをさせていただきます。定着に関しましては、私どもは日田に来まして4年になりますが、その間の離職や退職率は5%です。これを高いというのか低いというのか難しいのですが、当社でみると</p>

	<p>高いのではないかとと思われます。</p> <p>退職する理由は確認させていただいていますが、会社に対する不満というよりは、違った仕事をしたいが新卒で入った方は多いです。途中で入った方は、違った理由となっています。</p> <p>今年に入っていえば、製造業を希望する方が少ないです。来年の4月の高卒採用を17名程度として活動をしておりましたが、各学校からは12,3名の推薦に留まっています。地元就職を希望がないのか、あるいはどれだけあるのか、我々企業側はわかりづらいのですが、地元で就職を希望ということに関しては年々厳しくなっています。</p> <p>もうひとつ付け加えていうと、もちろんできるだけ地元採用を最優先と考えてはおりますが、実は今この機会に調べてみますと、全体の従業員の2割が日田市外から住居を日田市に構えてくれています。昨年では、大卒で内定を出した6名のうち5名は市外、県外です。そこまでして就職をしてくれるニーズがあるのです。そこをうまく掘り起こして、日田から出て行かない施策、逆に入ってきてもらえる施策を具体的に金銭的な支援も含めてしっかりしたものにしていくことが先決かなと思います。</p> <p>人を増やすには雇用がないとだめですし、まずは、私どものような企業をしっかり押さえることです。それと同時に入ってきた方をいかに定着して、住んでいただくのか、5年後、10年後という将来を見据えて力を入れなくてはいけないと考えています。</p>
委員	<p>考え方をお尋ねしたいのですが、結婚の希望をかなえる支援で出会いの場が欲しいという意見が多いことに驚きました。出会いだけを求めている人は、経済的には結婚できる環境にあるとみていいのでしょうかけれど、経済的に結婚できない環境、いわゆる非正規職員だからできないという方もいらっしゃると思います。そういう場合は、商工業の振興のところに非正規か正規といったものではなく、あくまでも安定した雇用という位置付けで政策をもってくるのか、結婚に必要な安定した雇用という位置付けでもってくるのか、その辺を分けてしまうのか、経済支援についてお聞きしたいと思います。</p>
事務局	<p>柱は、4つですが、当然、重複する場合も有り得ます。他所の市で見ますと同じことを再掲として記載したり、言い回しを変えても内容としては同じことを記載しているといったようなことがあります。具体的については現在作成中でして、こういった表現がいいのかも考えております。</p>
委員	<p>市民の皆さまからの提案がここに4つに分けて出ておりますが、先ほど市議会のほうから、市議会としては大きな柱がほしいということでした。私も、「地場産業の振興」、「観光の振興」、「子育ての支援」、この3つの支援について、しっかり柱立てして、枝葉をつけていくのがよいと思います。先ほど言われたように「子どもができたなら私は日田市に住みたくない」、これではどうにもなりません。今年の高卒者が日田に残ってくれないような問題をどう改善をしていくの</p>

	<p>かを解決していかないといけないと思います。地方創生ですから、これを活かして大きな決断をして、大きな柱を立てて進めていかないと絵に描いた餅になってしまいそうな危険な思いがします。是非そういう考えでやっていただきたいと思います。</p>
委員	<p>皆さまの提案から、自然を上手に利用した施策や、後は観光推進事業、食べ物や資源を活かしたものがいいのではないかと感じるのですが、一方で、商工業としてショッピングセンターの誘致がありまして、たくさんの要望があると思います。こうした大きな建物を建ててしまうと景観を壊してしまうのではないかと思います。豆田の町並みにあった景観の建物を建てるのは、企業に市からリクエストをすることはシステム上可能なのでしょうか。</p>
事務局	<p>町並みについては、建物を建てるのにも修復するにも規制があります。ショッピングセンターは以前から要望はあります。休日に子どもが外に遊び場がないので、例えば久留米とかのイオン等に行けば、1日買物もできて遊べるのでしょう。ただ、大型ショッピングセンターの集客はあるのですが、人口が減っていく中で、経済的な活動がなければ撤退されるということもあります。このような事を勘案しながら、この施策がよいのか、検討していかないといけないと思っています。</p>
委員	<p>大きなショッピングセンターに関しては、こうしたアンケートをとると必ず出てきます。生活している人たちからみると要望があると思います。その結果、市内の商業者に影響があります。生活している市民の皆さまもある程度考え方を改めて、これからの時代を生きるための心構えのようなものをもっていかないといけないと思います。国は、病院のベッド数を減らす方針ですが。日田に1400あるものが700にという数字が出ています。つまり、手術とかは久留米などの福岡で受けており、実質稼働でいうと半分がいいのではないかとこの考え方です。市民の皆さまも創生ビジョンを作っていく中で参加して、考え方を改めていかなければなりません。あれもやってもらいたい、これもやってもらいたいではなくて、我慢するところは我慢する、そうした心構えを持つ、一緒にやっていくという考えです。</p>
委員	<p>私は、子育て世代で、親の立場で教育と医療を考えています。子育て会議でも医療の話が出ておりますが、現在様々な助成制度がありますが、制度を受けて恩恵を受けている家庭もありますが、恩恵を被っていない家庭もあるかと思えます。</p> <p>子ども子育て会議では、2900名の子どもの保育料を市が負担できるくらいになったらいいのではという意見もあります。小児医療に関しても切実な問題で、実際に不安で、ここで子育てができないから違う市に行きますという方も現実におられます。</p> <p>それから、日田市の学校給食についてですが、成長過程にある子どもたちに、今の量（品数）で十分なのではないでしょうか。少ないのではと感じます。また、給食費</p>

	<p>の未納者が多いとお聞きしたこともあります。給食費の無料化は難しいでしょうか。子どもを産んだから助成金をあげるとか、現在取り組まれている子育てクーポンというお金をいただくよりは、実際の給食費の負担を軽減してあげることが子育てする世代としては良いと思います。</p> <p>子どもを育てるときに、子どもだけではなく一緒に親も育っていくような教育があると、「ここで子育てをすると楽しいよ」、「日田で育てなきゃ」と思われるような日田でしかできないような教育や地域の自然等を活かせるようなことができれば、他からの移住者も増えると思います。</p>
委員	<p>本市においては、第1次産業の人口の割合が多いと思います。40年、50年、戦後70年という経済構造の中で人口減少問題がでてきたのではと思います。市の活性化では、林業・農業といった基幹産業がどうするかという問題があると思います。その中でも、後継者という問題が出てきます。結婚、子育て関係をしっかりしていかなばと思っております。農家は、後継者はいますが、嫁さんがいないという方がたくさんおられます。見合いの場があるといいと思います。審議会では地方創生の人口5万人を一緒にやろうということならば、PDCAサイクルを回して、CAをいかにしてやっていくかということが大事ですので、CAをしっかり理解していくのがよいと思います。</p>
会長	<p>この審議会は2月に答申を出して終わりという会ではありません。先ほど、事務局からのご説明がありましたが、まずある柱をたててやるということで、当然そこには、こういうアイデアがあるとか、改善をして毎年、毎年これを練り上げていくということがなければいけません。審議会もその後も続いて、機能します、私どもの責任も大きいのではないかと思います。具体的なお話が出ましたので尊重していただきたいと思いますが、この目標に対して特にこの事業が有効だ、これが大切だということも含めて、我々継続的に審議をする責務があると思います。</p> <p>今日の段階で資料をみながら、これが施策として出てくるものではなく、ひとつのまとめりとして体系化を図っていただきたいと思います。言うのは簡単ですが、これから大変な仕事をされると思いますが、審議会の今の議論ではそういうようなことになります。</p> <p>私の個人的な感想を申し上げますと、雇用の安定ということについて、所得の問題、保育所の問題、さらに離職率の問題を委員が言われて、安定した満足できる雇用の場というものはどうやってできるのかというものでした。こうしたクロスした意見を聞くことはあまりないのですね、そういった意味でこういった場を継続して、さらにもっと知恵を出していくことで進化していくのだと思います。審議会は終わりませんので、ひとつよろしくお願い致します。</p> <p>最後にどなたかありますでしょうか。</p>
委員	<p>議会では、3つの常任委員会で議論しておりまして、教育福祉委員会では、若い世代の結婚、出産、子育ての希望を叶えるにはどうしたらいいのかということ</p>

	<p>を議論しています。市民の方からは、色々上げてもできないのではないかと、もっと目玉、こういうのをするのだという打ち出しをしたらいいという意見もあるのですが、増田教授が言っているのは、ひとつひとつの意見で特殊出生率が上がる、よくなることはない、やはり総合的に切れ目のない支援がないと結婚、出産、子育ては難しいと言われていています。総合的切れ目のない支援を実行している自治体は結果が出ているようです。</p> <p>市民の皆さまの意見以外では、例えば妊娠しているときに不安に思ったり、現在三世代は少なくなっておりますので、若い二人で子どもを育てていて、親は離れていたり、相談する相手がいなかったりなどの相談はあります。</p> <p>市の財政では、障がいのあるようなハイリスクの場合は対象としていますが、そうでなくてもやはり不安があります。仕事と子育てを両立するということ例えば、日田市の企業は10人未満の事業所は、7、8割育児休暇制度を設けていないのです。育児休暇が取得できるように、安心して子育てをしながら力が発揮できるという切れ目のない支援を総合的にやっていくことが、子どもが増えていく、若い世代が日田市に住んでいくということではないかと皆さまの意見を聞いて思うところです。</p>
<p>会長</p>	<p>他はよろしいでしょうか。提案に基づいて自由な意見交換、討議を行ってまいりました。</p> <p>政府機関の誘致について、事務局より現状報告がありました。これについてご質問、ご意見ございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>国の機関を誘致するとして日田市の名前が出ておりますが、取り組み状況などを教えて下さい。</p>
<p>事務局</p>	<p>県の担当者と一緒に先日国のヒアリングを受けてきました。県内では、日田市と佐伯市が提出しています「森林技術総合研修所」の地方拠点について、国としては今八王子にあって、西日本の拠点となれば、それが2箇所になるわけで、国としては大変非効率になるとの考えがありました。</p> <p>例えば、講師を派遣するには、今は新宿からでも40分で行ける場所ですので、講義をして帰ってからも仕事ができる環境であるけれども、日田市に来るにはなかなか日帰りでは難しい、11県から移転要望が出ておりますが、どの地域においてもこういったデメリットをカバーできるだけのメリットがなければ、移転は難しいとの見解もありました。</p> <p>先ほど申し上げましたが、八王子市にあるということで、八王子市と国はそれぞれメリットを享受しています。移転となると、この八王子市も納得する内容、理解等も必要との話もありました。</p> <p>今後については44都道府県から上がってきた提案を11月に有識者会議で審議するそうです。可能性のあるものについては、もう一度ヒアリングがあるかもしれません。今時点では、県が国の内閣府に情報収集をしていく、必要であれば、改めての日田市のアピールをしていくことになると思います。</p>

委員	日田は観光地で宿泊するところもあるのですから、研修は廃校、森林するような提案をしたらどうですか。
事務局	もちろん、そういったことも含めてです。バリエーションはあるのですが、国は無条件で来られるような提案だと可能性があるようです。受入地が全てするような提案のところでは可能性があるようですが、国の本気度や国のハードルの高さ等は少し調査する必要があるのかなと思っています。
委員	地方創生ですからね。
事務局	県の担当者もそういったお話で、ヒアリングのときにもお願いしたそうです。
会長	今出ている意見は、今後も益々議論が必要なところがたくさんあると思いますので、引き続き議論ができればと思いますが、本日はこれで一応終了したいと思います。よろしいでしょうか。
委員	<p>私も4本柱の中で「子育て支援」「結婚」というところが金融協会側からみても響くのかなと思いつつ、法人の体力が中々ない中で安定雇用が難しいということで、何を先にするのかという問題もあるのかなと思います。「結婚・出産・子育て」がひとつのテーマになって横に繋がっていけばいいのかなと今日は感じました。</p> <p>その中で最後に11月に素案を改正した後、審議会ということですが、4本柱の市民の意見から費用対効果や強み、弱みなどを見直しているとは思いますが、現在はどのレベルになるのか、次回の審議会ではどの程度の完成度となるのか。</p>
事務局	11月30日は案の諮問を考えております。ひとつの例としましては、県の総合戦略をお渡ししましたが、こういった形のものであります。基本的な方向があって、基本的な方向に基づいて主な施策があり、具体的に実行することで、3年後、4年後のKPIの指標をどこの水準までもっていくのかという内容のものであります。別冊3の日田市バージョンを今度の第3回のときに諮問して審議いただく形を考えております。
委員	県の総合戦略は内容が十分充実しておりますが、何もかも入れているようです。今日の冒頭も感じておりましたが、手探り感が抜けないうまま、後半はだいたいまとまってきたとは思いますが、この中のどれをチョイスして、ここを起爆剤にして横に広げると、雇用も安定するし、定住も安定するし、子育てもできるようになるという相乗効果があるような形がよいと思います。ここで集約していくというイメージを持っているのですが、このような一覧表のようなものになると審議がしづらいのではないかと思います。
会長	県のものは、ここにも書いてありますが、総合計画があり、その中で総合戦略になるものを抜粋したものであるということですね。それに対して、日田市は、今年度総合戦略を策定して、来年度総合計画を策定するスケジュールです。資料にある意見の一覧表で、今年度策定する総合戦略に盛り込めない意見については、来年度策定する総合計画に反映する考えだと思います。

	<p>今のご意見もそうですし、先ほどのご意見もそうでした。あれもこれもという考えではなく、ある程度柱だてが重要であるとのこと。その辺も十分に考慮しながら、案を作っていただければと思います。よろしゅうございますか。</p> <p>それでは、本日の審議はこれで終了といたします。</p> <p>事務局でよろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>次回の第3回の審議会につきましては11月30日の13:30からこの会場で開催させていただきます。お忙しいと思いますが、改めてご案内をさせていただきたいと思っております。次回は、案の諮問ということで、またご審議いただけたらと思っております。以上です。</p>
会長	<p>それでは会長としての議事進行はこれで終了したいと思います。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、第2回日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を終了いたします。</p> <p>～ 散 会 ～</p>